

井戸尻のシンボルマーク制作について。

井戸尻のシンボルマークを制作するにあたり、井戸尻そして縄文を愛する町民の方々、一般参加者の方々にお集まりいただき、井戸尻考古館の小松隆史氏館長のお話をお聴きしながらワークショップ形式でアイデアを出し合いました。

ワークショップを通じて井戸尻の歴史を紐解いていく中で、

《再生》

《おらあとうの宝》

という2つの言葉に行き着きました。

縄文時代を生きた井戸尻の人々は、

「蛙（カエル）」、「蛇（ヘビ）」、「月の満ち欠け」、「子供」、「女性」といったモチーフを土器に施すことで、《再生》という言葉の意味を表現していたと考えられています。

これらの要素は、井戸尻を象徴する印として欠かせないモチーフであると私たちは捉えました。

また、井戸尻考古学の歴史を、研究機関の力に頼らず、

古くから地元の歴史として自らの手を使って掘り起こしてきた《おらあとうの宝》という井戸尻の人々の探求精神も、忘れてはならない現代に息づく大切な歴史の一つと考えました。

これらの要素を内包するシンボルマークとして3案を制作しましたので、

皆様のお気に入りの1案に1票を入れていただけると幸いです。

このマークが、長く地域の皆様に愛されることで、縄文の歴史を紐解いていく機会が増え、

そして、《再生》のごとく歴史から学んだ縄文の知恵を現代に活かし、

富士見町独自の文化が生き続けることを切に願っております。

作品概要内 参考文献：

- ・甦る高原の縄文王国 井戸尻文化の世界性
- ・井戸尻 第6集、第8集

A



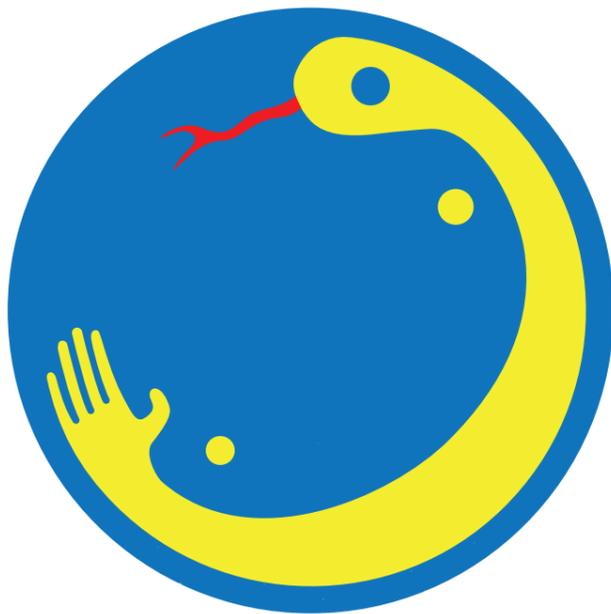
おらあとうのたから井戸尻

概要：

自分たちの土地の歴史を、自らの手で探求する。

一見当たり前に思える《おらあとうの宝》の精神は、生活様式や働き方が多様化する現代において、その土地に根付いて生活を営んできた人々の想いや文化を知る上で、残していくべき精神だと縄文文化が教えてくれている気がします。シンボルとして、親しみやすさとわかり易さを念頭に、[ORA]の文字を《再生》を意味する「こども」「ヘビ」「カエル」で表現したマークです。

B



おらあとうの たから井戸尻

概要：

私たちは普段、太陽を中心に地球が周回し、当然の事ながら太陽が日常生活において欠かせない存在と認識しています。しかし、縄文の人々は月を中心に世界を捉えていたと考えられています。そして、暗い月（＝古い月）を「カエル」、三日月（＝新しい月）を「ヘビ」で表現することにより、《再生》のシンボルとして表現していたと解釈されています。このシンボルマークは、月の満ち欠けのように、古いものと新しいものがゆっくりと融合した、井戸尻そして富士見町の独自の文化を表現しています。



概要：

じゃもんさかつぼ

蛇文酒壺という土器には、このシンボルマークのような蛇の文様が施されています。

神話として語られている話には、その昔、お天道様とお月様が人間に長寿の薬を与え

ようと、しぢみず 変若水としにみず 死水を用意したそうです。その時、蛇が人間の代わりに変若水を浴びてしまったことにより、蛇は脱皮を繰り返して生まれ変わることができるようになり、人間は死を迎える生き物になったそうです。私たちは、幸か不幸か、いずれは終わりを迎える生き物となってしまいましたが、死があるからこそ「未来へ、過去を語り継ぐことができる、唯一の生き物」になったのかもしれない。

投票

A

B

C

ご協力、ありがとうございました。